

# 放射能汚染の健康への影響 ～チェルノブイリと福島を比較して～

2011年3月11日から約2年半が経過しました。現在、マスメディア等で放射能の健康への影響について様々な情報が流れていますが、中には、内容が専門的過ぎて理解できなかったり、信用できる情報なのか迷うものも多くあります。

そこで新潟県弁護士会では、今回、放射能による健康被害に詳しい二人の専門家をお招きしてお話を伺うことにしました。お二人とも東日本大震災後に福島に研究拠点を移して福島における放射能汚染による健康被害の実態調査をされる一方、チェルノブイリ原発事故があったウクライナを定期的に訪問され、現地の地域住民の健康被害調査をなされています。

これを機会に放射能の健康への影響についてご一緒に考えてみませんか。

## プログラム

受付 13時30分～14時

### 1 ご講演 (14時～15時20分)

(講師) 木村真三氏

獨協医科大学准教授  
同学国際協力支援センター国際疫学研究室室長 兼 福島分室室長



(講師) 小正裕佳子氏

東京大学大学院医学系研究科博士後期課程  
獨協医科大学国際疫学研究室福島分室 研究助手  
(元NHKアナウンサー)



### 2 質疑応答(15時30分～16時)

(日時) 平成25年9月15日(日) 14:00～16:00

(場所) 新潟駅南口 PLAKA1 2階  
新潟大学駅南キャンパスときめいと講義室A(地図は裏面)

参加費無料 定員60名

主催 新潟県弁護士会  
共催 新潟大学法科大学院・法学部、  
日本弁護士連合会、関東弁護士会連合会  
お問い合わせ 新潟弁護士会 025-222-5533

# Profile

木村 真三 氏

獨協医科大学准教授、同学国際協力支援センター国際疫学研究室室長 兼 福島分室室長。  
ウクライナ国農業政策・食糧省直轄 ジトーミル国立農業生態学大学名誉教授。  
特定非営利活動法人 放射線衛生学研究所 理事長。

放射線衛生学の専門家として、チェルノブイリでの実地調査を長年継続している現場主義の研究者。

東日本大震災発生直後、それまで勤務していた厚労省所管の労働安全衛生総合研究所の職を辞し、福島県で独自に放射線量の調査や除染作業を始める。この調査の様子は、NHK ETV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」でも放映され、詳細な放射能汚染地図がはじめて一般に公開されて大きな反響を呼んだ。

現在も、福島県で放射能汚染調査を行うとともに毎月ウクライナ国での健康調査も継続し、被曝線量や健康影響について独自の調査を行っている。

また、上記特定非営利活動法人の理事長として、被災者、避難者への住民支援活動も行っている。

小正 裕佳子 氏

東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻修士課程 修了  
東京大学大学院医学系研究科博士後期課程 進学

2009年4月 日本放送協会 放送部入局

2009年6月より新潟放送局に配属。

「新潟ニュース610」の女性キャスターとしてご活躍。

2012年7月退職

現在、東京大学大学院医学系研究科博士後期課程及び獨協医科大学国際疫学研究室福島分室 研究助手

2012年8月より医療従事者として研究を行うとともに、福島県にて復興支援活動に当たり、また放射能について現地調査にも従事している。

## (会場)

